

San Francisco Chronicle

彫刻家はガラスに新しいひねりをもたらします

文； ケネス・ベイカー サンフランシスコ・クロニクル - Galleries

2002年6月15日（土）

ガラスを扱う彫刻家は、デコレーターの彫刻の概念である「ガラスアート」と見なされるものを危険にさらします。

日本のアーティスト、角永和夫は、リムで展示されているガラス作品がこの重大なハンディキャップに直面することを知らなかったかもしれませぬ。彼はいずれにせよ心配する必要はありませんでした。彼の作品は、ガラス芸術の文脈を超えた興味と言及を呼び起こします。

角永の彫刻はガラスのスクワットマウンドで、その傾斜した先細りの形状はコイル状のロープの山を示唆しています。実際、各作業は、48時間維持された単一の熔融ガラスストリームのスパイラルフローから発生しました。

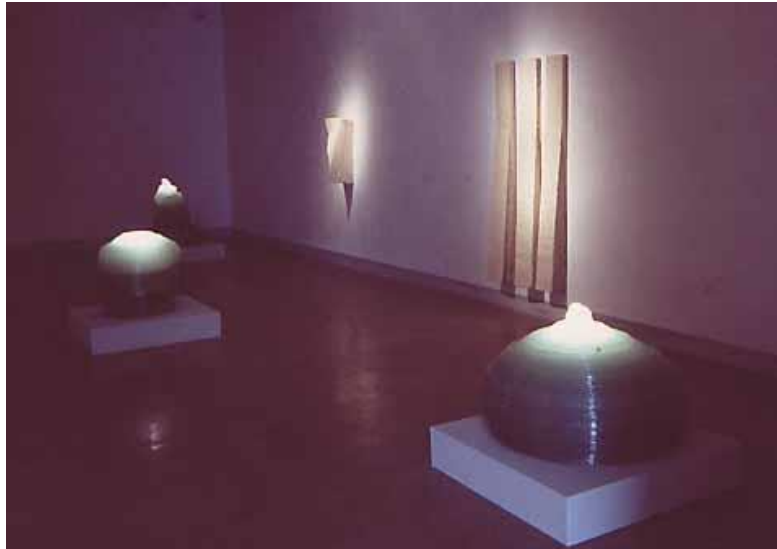
何年にもわたって材料を研究した後、角永は、特注のコンピューター制御キルンの上にある開口部から熔融ガラスを注ぐプロセスを考案しました。

プロセスが監視され、ガラスが堆積し続けることが保証されます。コンピューターは窯の温度を最適に保ちます。それ以外の場合、重力と材料自体の性質により、作品の最終的な形が決まります。注ぎ終わったら、各ピースを移動する前に3か月間冷却する必要があります。

角永は、強い垂直のスポットライトの下で彼のガラス片を示すのが好きです。このプレゼンテーションは、オブジェクトにランプのような品質を課し、プロセスアートの特技としてのそれらの重要性を損なう貴重さです。

角永を「もの派」運動と連想する人もいるだろう

フォームのジェネレーターとしてのプロセスへの彼の興味のために1960年代後半のLimnで展示されている紙と木片は、この関係をサポートしているようです。



Kazuo Kadonaga's sculptures —squat mounds resembling heaps of coiled rope, formed by streams of molten glass—are on view at Limn

彼が直接関わっていない派のアーティストと同様に、角永はアメリカの最小限のアートと最小限のアートの影響、ヨーロッパのジョセフボイスとアルテポーヴェラの彫刻に反応しました。

Arte Poveraのミニマリストと開業医は、人とモノを意味のある形で結びつける行動として、アートメイキングを新たな切り離しで見ました。芸術はそれから、社会の非自己意識的な物質的生活に、批判的、詩的、またはその両方であ

る新しいマインドフルネスを導入するかもしれません。

視聴者は、角永の作品を他の日本の情報源よりも西洋に結び付ける方が簡単であると感じるかもしれません。彼のガラスの作品は、ロバート・スミスソンの初期の積み重ねられた窓ガラスの彫刻を思い起こさせます。

角永の木片は、丸太をスライスまたは分割し、セクションを個別に乾燥させて、再組み立てします。彼らは、長い木製の梁を分割して再結合したロバート・グロブナーと、製材された木材から苗木の幹を切り取ったジュゼッペ・ペノーネを思い出します。

角永のガラス作品の最もアジア的な側面は意図されていない可能性があります。それらが仏舎利を想起させること、独特のアジアの建築形態を生み出した仏教遺物の古代の古墳です。

* * * * *

GALLERY SHOWS

KAZUO KADONAGA : GLASS AND PAPER:

Sculpture in paper, glass and wood. Through July 3. Limn Gallery, 292 Townsend St., San Francisco. (415) 977-1300

